

→ 中四国ブロック

ブロック活動報告

REPORTER

吉野 哲一（徳島県パラスポーツ指導者協議会情報部）

人と人がつながり、パラスポーツが盛り上がる1日 インクルーシブスポーツフェスタ開催！



地元・徳島出身の高井選手からの講演会

令和7年2月24日、「2025 頑張るんじょ！とくしま インクルーシブスポーツフェスタ」が徳島市で開催されました。「頑張るんじょ」とは、阿波弁で「頑張るんですよ」という意味です。このイベントは、誰もが参加し、スポーツを楽しめるパラスポーツ競技を通じて、人と人とのつながりがふくらむインクルーシブスポーツの裾野拡大を目的としており、午前中にパラアスリート講演会とパネルディスカッション、午後にパラスポーツ体験が行われました。

講演会では、ブラインドマラソンの高井俊治選手から「マラソンへのチャレンジ 走ることの楽しみ」というテーマで講演があり、プロランナーとしての経験やモチ

ベーションを保つ大変さとその秘訣、日常生活やトレーニングに対する考え方が自分のあり方を変容させてくれる要素だと話されていて、参加者全員が聞き入っていました。



体育館のフロアで車いすカーリングを体験

パネルディスカッションでは、視覚障がい者柔道選手の藤本聡氏、元車いすテニス選手の岡部裕子氏、日本パラスポーツ協会公認パラスポーツトレーナーの海部忍氏、日本パラスポーツ協会公認上級パラスポーツ指導員の福島賢太郎氏の4人のパネラーからパラスポーツを通じて人と人とのつながりや、自分の活動が変化したことの話がありました。スポーツの魅力は競技をするだけでなく、自分自身を成長させるものであること、そして支援者は選手を「支える」というより、共に楽しむ仲間として存在することで「ありがとう」と言葉が飛び交い、相互の感謝が生まれるなど、スポーツ以外のことにも通ずることとしてとても印象的なディスカッションでした。

午後からは、パラアイスホッケーやパラローイングなど徳島であまり経験できない4つの競技の体験ができ、参加された方全員楽しそうにプレーしていました。今後もこのようなイベントを通して、より多くの方にパラスポーツの魅力を知ってもらえるよう普及啓発していきたいと思います。

→ 九州ブロック

ブロック活動報告

REPORTER

大石 勝規（中級指導員／長崎県パラスポーツ指導者協議会）

垣根を超えた多くの方が参加するボッチャ大会 産官学連携でのインクルーシブ社会の創生へ

長崎県では、地域企業（産）、長崎県障害者スポーツ協会・長崎県ボッチャ協会（官）、初級パラスポーツ指導員資格認定校（学）が連携してボッチャ大会を開催しています。長崎県パラスポーツ指導者協議会は、ボランティアの協力者を募り、この大会の運営をサポートしています。

参加する地域企業には、自社にはない地域の外部資源を活用して共生社会創生への貢献の場を得ることができるため、資金面やスタッフのみでなく、「一緒に楽しむ参加者」としても多大な協力をいただいています。指導員資格認定校の大学や医療系専門学校は、実践的な経験を通じて、資格取得後の活動イメージを養っています。また、事前の研修などを経て、大会では審判員や運営な

ど大切な役割も担い、卒業後も継続的に活動を行う意欲を高めています。

近年は長崎県でも、ボッチャは急速に注目を集め、地域や教育の場面でも楽しんでもらえるスポーツとして認知度が向上しています。共生社会の実現、地域活性化と交流の促進、健康増進とスポーツの普及など、多くのインクルーシブな価値観の醸成の一助となっている実感があります。



ボッチャ大会

しかし、私たちは、ボッチャの本来の価値、特に脳性麻痺や四肢麻痺を伴う重度の障がいを持つ方々のためのスポーツとしての側面を大切に、機会を創り出すことにも尽力したいと思います。

今後も、より多くの人々と協力し合いながら、インクルーシブ社会の実現に向けた取り組みをさらに盛り上げていきます。

ボッチャ大会を支えたスタッフ

